

9月

みんなくウィークエンド・サロン

研究者と話そう

■展示観覧料が必要です。
※都合により、予定を変更することがあります。

国立民族学博物館（みんなく）の研究者が来館された皆様の前に登場します！
「研究について」「調査している地域（国）の最新情報」「展示資料について」
などなど、話題や内容は千差万別！
どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。

4日
(1100日)

時間：14時30分から15時30分
話者：菅瀬晶子（国立民族学博物館 助教）
話題：パレスチナ刺繍と女性たち
場所：西アジア展示場

11日
(1100日)

時間：14時30分から15時30分
話者：関本照夫（国立民族学博物館 特任教授）
話題：影絵人形芝居ワヤン・クリットのこと
場所：東南アジア展示場

18日
(1100日)

時間：14時30分から15時30分
話者：太田心平（国立民族学博物館 助教）
話題：韓国系移民はどうして多いのか？
場所：朝鮮半島の文化展示場

25日
(1100日)

時間：13時から14時
話者：内藤直樹（国立民族学博物館 機関研究員）
話題：アフリカのケータイ最新事情
場所：アフリカ展示場

1年間みんなくに何度でも入館できる 「みんなくフリーパス(3,000円)」をご利用ください。

本館展示は何度でも無料で入館できます。他にも、みんなくを楽しむための特典がいっぱいです。

特典◆本館展示の無料入館◆特別展示の観覧料割引

◆みんなくミュージアム・ショップとレストランの10%割引

◆万博記念公園内および周辺施設での利用割引 など。

詳細については、財団法人千里文化財団までお問い合わせください。
(電話06-6877-8893/平日9:00～17:00)

編集後記

今月号の特集テーマは10月6日から本館で開催される特別展「千島・樺太・北海道 アイヌの暮らし—ドイツコレクションを中心に」を少し先どりするかたちになった。特別展にかかわった研究者が執筆する本特集が展示観覧の参考になれば幸いである。ところで今日、いわゆるアイヌ新法（1997年）に見られるように、アイヌは国家によって民族として認められ、文化や言語の振興が図られているが、民博とのかかわりはずっと長い。民博は1977年の開館当初からアイヌ文化を日本の固有文化のひとつとして重視し、常設展のアイヌ展示はアイヌの人びとの協力で実現したものである。また「アイヌモシリ—民族文様から見たアイヌの世界」（1993年）、「ラッコとガラス玉—北太平洋の先住民交易」（2001年）、「研究者が見誤った伝統？アイヌの機織り技術」（2004年）、「アイヌからのメッセージ—ものづくりと心」（2004年）など特別展、企画展でもアイヌ文化をとりあげてきた。本特集を契機にそれらを振り返ってみたいと思う。（庄司博史）

- 表紙：同じ用途をもつ生活用具にも、その形や彫り込まれた文様に地域の特徴があらわれる。
上から・「ニボン」/盆 千島アイヌ K0002368
・ニーソシ、チエベニバボ/皿 樺太アイヌ H0023793
・イタ/盆 北海道アイヌ K0002158

次号の予告

特集

保存食（仮）

月刊みんなく 2011年9月号

第35巻第9号通巻第408号 2011年9月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
電話 06-6876-2151

発行人 八杉佳穂

編集委員 庄司博史（編集長） 櫻永真佐夫 川口幸也
久保正敏 菅瀬晶子 中牧弘允 山中由里子

編集アドバイザー 山内直樹

デザイン 宮谷一敦

制作・協力 財団法人 千里文化財団

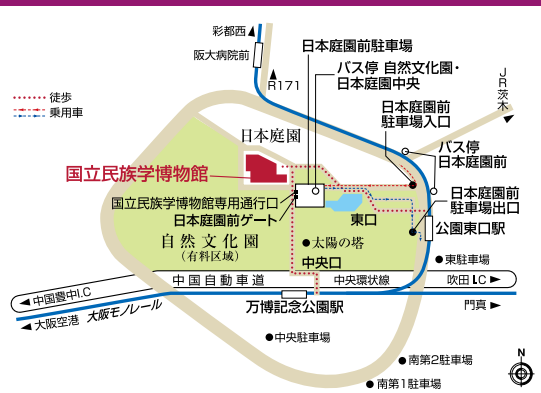
印刷 日本写真印刷株式会社

*本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館広報係に
お願いします。

*本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

交通案内

- 大阪モノレール「万博記念公園駅」・「公園東口駅」下車、徒歩約15分
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車、徒歩約15分（茨木方面からは、もっとも近い「自然文化園・日本庭園中央」バス停で下車できるバスが1時間に1本程度あります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください。）
- 自家用車は、公園内の「日本庭園前駐車場」（有料）から徒歩約5分。「日本庭園前ゲート」横にある民博専用通行口をお通りください。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れてできます。



みんなくホームページ

<http://www.minpaku.ac.jp/>

